



日本システムバンク 株式会社  
『しがぎん』サステナブル評価融資

発行日：2025年9月30日

発行者：株式会社しがぎん経済文化センター  
産業・市場調査部

本文書は、日本システムバンク 株式会社（以下、「日本システムバンク」または「同社」という）が滋賀銀行から『しがぎん』サステナブル評価融資（以下、「本ローン」という）を受けるにあたり、株式会社しがぎん経済文化センター（KEIBUN）が発行するものである。なお、『しがぎん』サステナブル評価融資とは、お客さまのサステナビリティ経営と有意義な目標設定に対し、外部機関による評価やモニタリングを通じた伴走支援により、企業価値の向上を後押しする融資である。

## 1. 会社概要

社名	日本システムバンク 株式会社（証券コード：5530）
所在地	福井県福井市中央3-5-21
設立	1996年7月10日
資本金	5億8,551万円（2025年6月期時点）
事業内容	・コインパーキング事業（コインパーキングの運営／駐車場機器の販売・保守） ・プロパティマネジメント事業（オフィスビルとマンションの賃貸） ・その他事業（工芸品の受託販売、ドローンスクールの運営）
従業員数	215人（2025年8月末時点）

### (1) 事業概要

日本システムバンクは、福井市中央に本社を置き、「コインパーキングの運営から駐車場機器の供給・メンテナンス（管理受託）を手掛ける駐車場管理の総合商社」として、自社運営並びに遊休土地の所有者や駐車場運営事業者などに対してコインパーキングの運営提案を行っている。自社運営では「コインパーキングの収益性に興味があるが、運営は不安」とする土地所有者に対し、同社が運営事業者としてコインパーキングを開設・運営し、賃借料を支払う。供給・メンテナンス（管理受託）では「自分で運営したい」土地所有者や駐車場運営事業者などに対して、駐車場機器を販売・設置し、保守ビジネスとして駐車場内でのトラブル発生時の利用者からの電話対応および駆け付け、精算機内の料金回収、駐車場機器の定期点検などのメンテナンス業務を行い、コインパーキングの開設から運営まで幅広くサポートする。

このように「総合商社のような、顧客ニーズに応じた柔軟な対応」を行うという戦略のもと、同社では2025年6月期時点で、福井と東京の本社以外に全国に14支店を置き、45都道府県で7,024件、149,000車室もの直営および管理受託の駐車場・駐輪場を展開している。

また、プロパティマネジメント事業として、自社で保有するテナントビルおよびマンションを個人または法人に賃貸する。現在、保有する物件数は 14 件あり、福井県や石川県といった北陸地域の物件を中心に取り扱っている。その他の事業では福井県内の工芸作家から工芸品の販売を受託し、福井県福井市の「ふくい工芸舎」で販売する CSR 活動やドローン操縦技能習得希望者に教習指導を行うドローンスクールの運営も行っている。

## ■ 駐車場、駐輪場の種類



### フラップ式

一般的なコインパーキングの管理です。地面に設置するフラップ板で駐車を管理します。乗り逃げ防止に強く、段差も少なくフラットに設計されています。



### フラップレス式

フラップ板を無くし、監視カメラで駐車を管理します。監視カメラで管理しているため、防犯機能も◎。入出庫もしやすく、利用者様にも好まれています。



### ゲート式

駐車場の出入口にゲートを設置し、出入庫を管理します。台数の多い駐車場に適しています。病院や空港、大型施設などによく使われます。



### チケット式

チケットを購入し、ダッシュボード等に提示して駐車します。設置コストが抑えられるので、格安で駐車場を提供できます。郊外や観光地などで活躍します。



### 駐輪ロック式

ラックに駐輪することで管理します。狭小スペースにも設置が可能です。空きスペースや、駅前、商業施設前などでも管理可能です。



### バイクチェーン式

チェーンをバイクに掛け、先端のロックキーを施錠することで管理します。狭小スペースにも設置が可能で、空きスペースや、駅前、などでも管理可能です。



### 駐輪ゲート式

駐輪場の出入口にゲートを設置し、出入庫を管理します。台数の多い駐輪場に適しています。駅近くの高架下や、変形地などで活躍します。



### オプション

他駐車場との差別化を図ることでまた使いたくなる駐車場へと進化します。

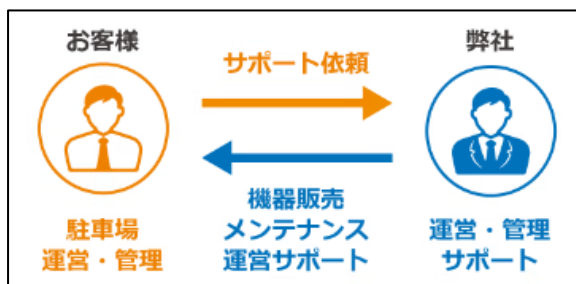
〔出所：同社ウェブサイト〕

同社の沿革は、創業者である野坂弦司氏が、1996 年 7 月に現法人を設立し、コインパーキング機器の販売を開始したことに始まる。国内では 1990 年代に全国各地で車道脇への違法駐車が社会問題化していた。そのような状況の中で、同氏は福井県福井市で発明されたコインパーキング機器の活用を進めることで、社会問題を解決していきたいという思いのもと設立に至った。その後、全国各地に支店を展開し、事業規模を拡大させていった。2004 年 12 月に「ふくい工芸舎」をオープン、2021 年 10 月にドローン事業を開始するなど、コインパーキング事業以外にもビジネス展開を進めている。2023 年 4 月には名古屋証券取引所メイン市場に株式を上場した。

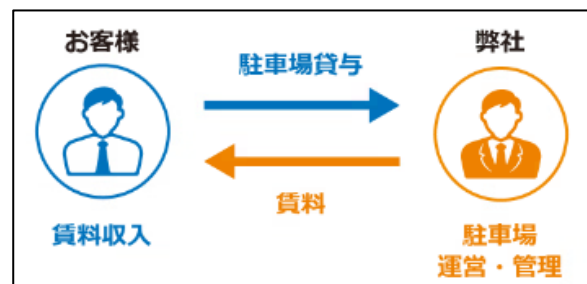
同社の強みは以下の 3 つにある。1 つ目は、「コインパーキングの運営・管理に便利なシステムサービスを有する」点である。売上、利益の最大化を図るには、利用者のニーズをつかむ必要があり、そのためには駐車場の稼働分析が重要であるとしている。具体的には、駐車場運営・管理統合システムを導入し、売上のほか、稼働率や車室別売上など様々な視点からデータを抽出・確認することができ、常に駐車場利用者の傾向と対策が分析できる。また、日本全国のシステムパークで利用可能なアプリ「SmooPA」を導入している。このアプリは、スマートフォンやパソコン、タブレットで利用でき、駐車場の検索、駐車車室の登録、料金精算など顧客の利便性を向上させているほか、駐車料金割引クーポンの発行などの機能を搭載しており、リピーターの獲得にも寄与している。

2 つ目は「駐車場運営ノウハウやデータを活かし、不動産オーナーのニーズに合わせた運営方式を提案できる」点である。先述の通り、駐車場運営の方式は「じぶんで駐車場経営」と「おまかせ駐車場経営」の 2 種類に大別される。同社は創業以来、全国各地でコインパーキング運営を展開しており、ノウハウだけではなく各地の特性（収益機会など）を情報として蓄積しており、幅広い顧客層に対して様々な角度から助言を行うことができる。また、顧客の駐車場運営に対する悩みなどを的確に捉え、収益性のある駐車場運営につなげることも可能である。

#### ■じぶんで駐車場経営（機器購入）



#### ■おまかせ駐車場経営（設備投資費用 0 円）



〔出所：同社ウェブサイト〕

3 つ目は、「トラブル発生時のスピード対応」である。同社は、自社運営のコールセンターを設置、経験豊富なメンテナンススタッフを各拠点に配置しており、駐車場におけるトラブル発生時の認知から現場対応、アフターフォローから再発防止、定期点検業務まで一貫した対応が可能であり、24 時間 365 日対応を基本にスピードと安心感を最優先に活動している。また、コールセンターにはデータセンターを併設し、メンテナンススタッフが迅速に現場の復旧作業に取り掛かれるよう、作業に必要な管理駐車場の正確な情報や入電対応情報をリアルタイムで共有している。加えて、高いサービス力を身につけるため、コールセンター専門のスーパーバイザーによる教育やメーカー研修・社内研修などを継続的に実施している。駐車場運営にあたって顧客の気持ちは「管理やメンテナンス」であり、開設後は顧客のコインパーキングを守るという使命を持ち、「安全・安心・快適な駐車場づくり」を掲げて対応にあたっている。

同社は、上記の強みを活かし、安全・安心かつ長期的に安定した駐車場運営を実現するべく尽力していきたいとしている。

## (2) 企業理念

日本システムバンクは、企業活動における方針として「喜びの種をまこう 幸せの種をまこう」という社是を掲げている。この社是には、より良いサービスを生み出し、より早くかつより安く提供することによる物理的な満足度だけでなく、顧客と接する従業員の礼節、心遣いなど顧客第一主義をモットーとした行動により、心理的な満足度を高めることが重要であるという意味が込められている。また、関わる全てのステークホルダーに「喜びと幸せ」を提供できるようにという思いを込めて、近江商人の三方よし（売り手、買い手、世間）の考え方を、あらゆる方向へ広げた「十方よし」という企業姿勢を有している。さらに「遊休不動産の有効活用」「24 時間 365 日サービス」「ソフトとハードを組み合わせたシステムの提供」の 3 つを基本姿勢とし、企業価値向上に努めるとしている。

そして、社是を実現するためには従業員の「物心両面での幸福」を実現することが欠かせないとし、経営理念として制定している。物心両面の幸福とは、経済的な安定や豊かさを求めるとともに、仕事の場での自己実現を通して、生きがいや働きがいといった人間としての心の豊かさを求めることであるとし、それを実現して初めて顧客へ「喜びと幸せ」を提供できるようになると考えている。社員一人ひとりが安心して将来を託せる会社であり続けるためにより良い組織づくりにも尽力していきたいと考えている。

### ■ 日本システムバンクの社是と経営理念

## 社 是

**喜びの種をまこう 幸せの種をまこう**

よりよいものを、より早くより安く提供します。

お客さま第一主義を貫き、

いつも誠心誠意、お客さまの為に働きます。

どんな困難に直面しても、

不撓不屈の開拓者精神をもって可能性に挑戦します。

最新技術・知識・ノウハウを創り出す

プロフェッショナル集団として、高効率、高回転をめざします。

自分の仕事に誇りを持ち、仕事を通じて社会に貢献します。

## 経営理念

全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、

仕事を通して社会に貢献します。

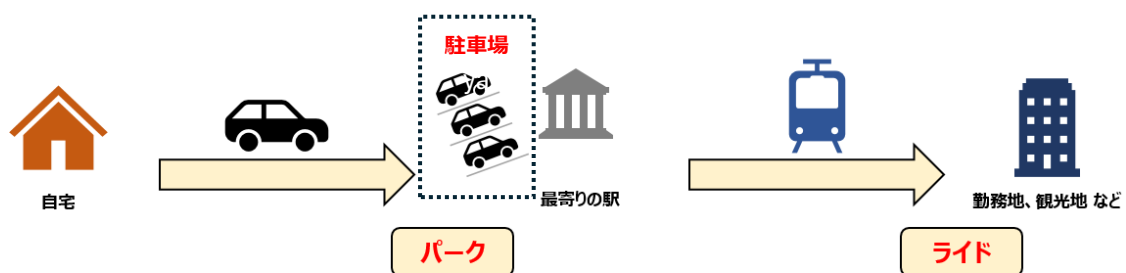
〔出所：いずれも同社ウェブサイト〕

## 2.日本システムバンクのサステナビリティ

日本システムバンクは、先述の企業理念を軸に、より多くの人や地域に対して継続的に付加価値の高いサービス提供を目指すとともに、コインパーキング事業を中心とした企業活動を通じて環境問題・社会問題の解決に貢献していくことが企業価値向上に欠かせないと考えている。そのため、E（環境）・S（社会）・G（ガバナンス）の側面で体制を整備し、各種取り組みを進めている。

E（環境）においては、駐車場ビジネスを通じた地球環境負荷低減へ貢献するとし、排気ガスの抑制や省エネ化、廃棄物削減に向けて取り組んでいく。排気ガスの抑制については、パーク&ライド<sup>1</sup>駐車場を積極的に推進していく。自動車利用が減ることにより、排気ガスを減らすことができるほか、考えられるメリットとして、交通渋滞の緩和や事故発生リスクの低減などの効果がある。現在、全国各地の都市部を中心に鉄道会社や自治体から駐車場機器の保守を受託し、駅近の駐車場をパーク&ライドとして活用できるよう整備を進めており、今後も積極的にパーク&ライドの普及・推進に取り組んでいきたいとしている。また、自転車の積極利用は健康増進にも寄与するものとして駐輪場の管理受託も積極的に進めるなど、自動車の排ガス抑制に向けた取り組みを拡大していく方針である。省エネについては、駐車場機器の省エネ化を進めていく。駐車場新規開設時には LED 照明器具の導入率 100%を目指すほか、既存駐車場含め省電力自動販売機の切り替えも順次進めていく。今後、自社の CO2 排出量データを可視化することでさらなる削減に向けた施策を検討していく方針である。廃棄物削減については、社内でのペーパーレス化を強力に進めていく方針である。具体的には受領書、契約書などの電子化、脱ハンコを進めていく。そのほか、電気自動車の普及が進めば、充電スタンド設置場所の確保が急務となることが想定されるため、自動車業界の動向を踏まえながら充電スタンドの普及にも貢献していきたいと考えている。

### ■パーク&ライドのイメージ図



〔出所：国土交通省の資料を参考に KEIBUN 作成〕




<sup>1</sup> 自宅から自家用車で最寄りの駅や停留所まで行き、駐車した後、鉄道やバスなどの公共交通機関を利用して、都心部や観光地などの目的地へ向かうシステムのこと。

S（社会）においては、駐車場運営を通じた地域社会への貢献と従業員の働きがいという2つの側面を取り組みを進める。同社は先述の基本姿勢のうち「遊休不動産の有効活用」を最も重要視しており、遊休不動産を駐車場として活用することで交通渋滞の緩和や違法駐車をなくしたいという思いを強く持つ。加えて、安全・安心な駐車場を整備することで便利で快適なまちづくりを実現することができると考えており、フラップレス駐車場を積極的に拡大していく方針である。今後、新規開設する直営駐車場は原則すべてフラップレス駐車場とし、既存のフラップ式駐車場についても順次フラップレス駐車場へ移行する予定である。そのほか、カーシェアリングの需要拡大に対応するべく、駐車場運営事業者とカーシェア事業者とを同社グループがマッチングし、カーシェア車両の設置台数の増加、すなわちカーシェア業界の発展に貢献していく予定である。従業員の働きがいでは男女平等、従業員教育、健康経営を軸に体制整備を進めている。男女平等に関しては育パパ推進と称し、男性従業員の育休取得を推進し男性の家事・育児参加を促す。女性活躍の目線でも、営業職における女性従業員や女性管理職の割合を増やし、女性ならではの気配りや気づきを社内に浸透させていく狙いである。従業員教育に関しては、利便性が高く、安心感のあるコインパーキングを提供するために、駐車場内でのトラブル発生時の対応や駐車場機器の定期点検業務の品質向上が必要であることから電気工事士資格の保有率を高めていく方針である。2024年度時点の保有率実績は41%となっているが、今後60%まで伸ばす目標を設定している。健康経営に関しては、健康支援アプリ利用促進や、ウォーキングイベント企画など従業員の健康意識向上に努めている。

G（ガバナンス）においては、上場企業として組織基盤を強固に保つことは重要であると捉え、全拠点、全従業員を対象とした定期的なコンプライアンス研修を実施するほか、相談窓口や内部通報制度について社内掲示板での貼り出しや社内報を通じた周知徹底を行い、内部監査を実施し、従業員が安心して働ける体制を構築していく。また、有事の際にも、企業活動の早期復旧および駐車場運営の維持による交通混乱の回避、従業員の安全確保ができるようにBCP策定にも着手する予定である。

### 3.サステナビリティ目標の設定

#### (1) サステナビリティ目標

テーマ	安全・安心・快適な駐車場づくり								
貢献するSDGs	  								
K P I	直営駐車場のフラップレス化率								
目 標	(単位：%)								
	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度	2030 年度	2031 年度	2032 年度
	実績	目標							
	29.2%	36.1%	43.0%	50.0%	56.9%	63.8%	70.7%	74.4%	80.0%
内 容	<p>【目標設定】  中期経営計画の目標値は 2027 年度（2028 年 6 月期）50%  2024 年度実績 29.2%より、50%達成に向け期間 3 年間で各年度の目標を設定。2030 年度まで同水準での向上を目指す  ・ 目標 50% - 実績 29.2% = 20.8%    20.8% ÷ 3 年 ≙ 年 6.9%をフラップレスに移行  以降は 2032 年度に 80%のフラップレス化を目指す</p> <p>【対象】  同社直営駐車場、但しゲート式などフラップレス化できない駐車場を除く</p> <p>【計算式】  フラップレス化率 = <math display="block">\frac{\text{決算時点での直営フラップレス式駐車場数}}{\text{決算時点での直営駐車場数（フラップレス化できない駐車場を除く）}}</math> （小数点第 2 位を四捨五入）</p> <p>【期間】  事業年度（7 月 1 日～ 6 月 30 日）を基準とする  例）2025 年度（2025 年 7 月 1 日～2026 年 6 月 30 日）</p>								

## (2) サステナビリティ目標の有意義性

日本システムバンクは本ローンの組成にあたり、「直営駐車場のフラップレス化率」を KPI に設定し、目標値を掲げた。以下にて、その取り組みの有意義性について見ていく。

国土交通省では、地域公共交通機関と連携した「コンパクト・プラス・ネットワーク<sup>2</sup>」なまちづくりや「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくり、土地の有効活用などを考慮したまちづくりを見据え、今後の駐車場政策のあり方について検討を行い、令和 7 年 5 月に「まちづくりにおける駐車場政策のあり方検討会」でまとめられた『持続可能なまちづくりと都市交通の実現に向けた駐車場マネジメントの推進のためのガイドライン』を公表した。

このガイドラインでは、駐車場は、他の都市施設や地域関係者と連携し適切に整備・活用等のマネジメントをしていくことにより、他の交通モード（公共交通、シェアサイクル等）への乗り継ぎ拠点となる交通の結節点（ハブ）としての機能を発揮するものであるとともに、都市機能やまちの賑わいを支える公共的空間として、人間中心のまちづくり及び地域課題の解決に貢献が期待される施設であるとしている。

また、このガイドラインに基づく取り組みや施策も記載されている。その施策の中で「安心・安全、G X（グリーン・トランスフォーメーション）、防災、D X（デジタルトランスフォーメーション）」の対策の 1 つとして、バリアフリー・ユニバーサルデザイン、こどもまんなかまちづくり<sup>3</sup>、機械式駐車場の安全対策推進による安心・安全確保の観点から、コインパーキングのフラップレス化を挙げている。このことからフラップレス駐車場は、バリアフリー化の観点や遊休時に駐車場を公共的空間として活用しやすくなる観点からも有効と考えられる。

### ■ 持続可能なまちづくりと都市交通の実現に向けた駐車場マネジメントの推進のためのガイドライン

とりまとめのポイントIII 具体的な施策の進め方 4. 各種政策課題への対応 

- 共同住宅の荷さばき駐車施設の**附置義務**導入や、地域連携による荷さばき駐車施設の確保による都市内物流の効率化や、ハード・ソフト合わせた総合的な取組による**観光バス駐車場・乗降場所の確保**の推進。
- 自動二輪車の附置義務**導入や自転車等駐車場での受入等による**多様なモビリティ**の駐車環境の確保の推進。
- バリアフリー・ユニバーサルデザイン**、**こどもまんなかまちづくり**、機械式駐車場の安全対策推進による**安心・安全確保**。
- 駐車場の緑化や E V 充電対応等による **G X** や、**防災機能強化**、デジタル技術活用による **D X** の推進。

都市内物流の効率化 (標準駐車場条例の改正等)	観光客受入環境 (観光バス等) 整備 (参考事例、予算支援の紹介等)
<p>共同住宅への荷さばき駐車施設<b>附置義務</b>導入 ＜荷さばき駐車施設の例＞</p>  <p>【参考】地域連携による荷さばき駐車スペースの確保・運用等 ＜荷さばきルールの例＞ (豊島区)</p> 	<p>【参考】ターミナル駅周辺での乗降場所の確保の例 (京都市)</p>  <p>【参考】民間開発と合わせた乗降場の整備の例 (東京都中央区)</p> 
多様なモビリティの駐車環境確保 (標準駐車場条例の改正、参考事例の紹介等)	安心・安全、GX、防災、DX (参考事例の紹介等)
<p>自動二輪車駐車施設の<b>附置義務</b>導入 (大阪市)</p>  <p>自転車等駐車場における<b>柔軟な受入</b>推進 (電動キックボード等)</p> 	<p><b>こどもまんなかまちづくり</b> ＜子育て応援駐車場の例＞ (鳥取県)</p>  <p><b>フラップレス化</b> <b>キャッシュレス対応</b></p>  <p><b>駐車場の暑熱対策</b> (吹田市)</p> 

10

〔出所：国土交通省ウェブサイト〕

<sup>2</sup> 人口減少が進む中、特に地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めること

<sup>3</sup> 子どもや子育てをする人が安心・快適に暮らせるように、子どもや子育てする人のことを考えて、生活環境をつくること

フラップレス駐車場を推奨している自治体もある。山形市では令和3年3月に、持続可能な都市構造の実現を目的に「山形市立地適正化計画」を策定している（令和5年12月に第一回変更済み）。同計画の中では、路外駐車場配置等基準を設定しており、駐車場内でも歩行者の安全性に配慮した構造が望ましいとしている。そして、構造等に関する基準の1つとしてフラップレス化を可能な限り満たすこととしている。

## ■ 山形市立地適正化計画

表 6-1 路外駐車場配置等基準の概要

届出対象となる行為	駐車場配置適正化区域や主要な幹線道路（※1）に面した部分において、 ①路外駐車場（※2）を新たに設置する場合 ②既存の路外駐車場の規模または自動車の出入口を変更する場合
届出対象となる規模	駐車のために供する部分（駐車マス）の面積が50㎡以上の路外駐車場 ※無料駐車場を含む（月極駐車場や住宅・マンションなどの専用駐車場は除く）
構造等に関する基準	<p>【駐車場配置適正化区域全体】</p> <p>次の事項を可能な限り満たすこととする。</p> <p>①フラップレス化（※3）</p> <p>②にぎわいの創出に資する管理規程の作成</p> <p>③通りに面した部分への多目的スペースの設置や植栽等による緑化（※4）</p> <p>【主要な幹線道路に面する路外駐車場】</p> <p>主要な幹線道路に面した部分に出入口を設置することを原則禁止とする。</p> <p>ただし、主要な幹線道路のみに面しているため、出入口を設置せざるを得ない場合は、次の事項を遵守することを原則とする。</p> <p>①ハーモニカ構造（※5）の禁止</p> <p>②後退して入庫する必要がある出入口の設置禁止</p> <p>③駐車場法施行令第7条第1項に掲げる道路等（※6）への出入口の設置禁止</p> <p>④出入口への警報装置（バトランプ）の設置</p> <p>⑤フラップレス化</p> <p>⑥にぎわいの創出に資する管理規程の作成</p> <p>⑦通りに面した部分への多目的スペースの設置や植栽等による緑化</p>

※3 駐車マスごとに設置されるフラップ板（ロック板）の代わりに、駐車マスの後方にナンバープレートを読み取るカメラを設置して入庫を管理するもの。

〔出所：山形市ウェブサイト〕

## ■ 日本システムバンクの「3つの“Less”」

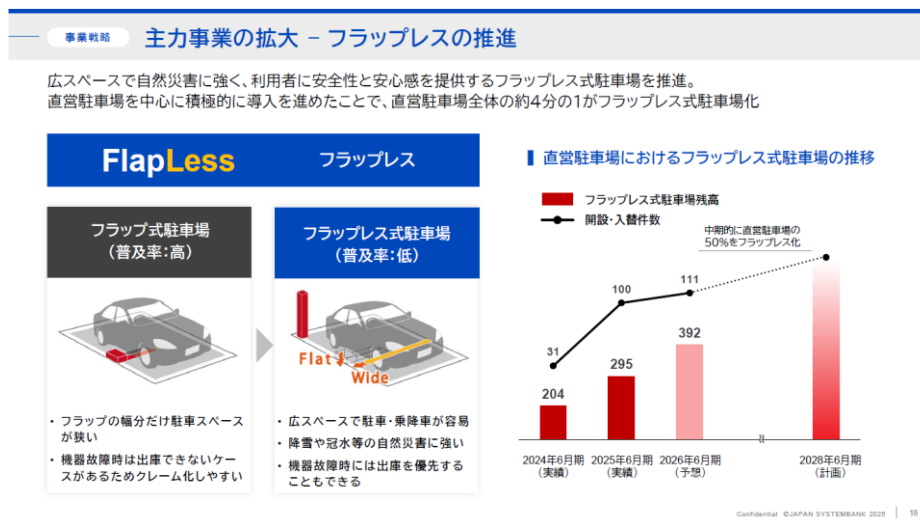
FlapLess	CashLess	StressLess
フラップレス	キャッシュレス	ストレスレス
		
駐車スペースが広くフラットで 駐車、乗降車のときに安全	硬貨つまりなどが起こらず 利用者に安心感を提供	高品質な保守と電話対応で 快適な利用をサポート

〔出所：同社ウェブサイト〕

日本システムバンクでは「3つの“Less”」で選ばれる駐車場づくりを推進している。3つの Less とは駐車スペースが広くフラットで駐車、乗降車のときに安全な「FlapLess = フラップレス」、硬貨つまりなどが起こらず利用者に安心感を提供する「CashLess = キャッシュレス」、そして高品質な保守と電話対応で快適な利用をサポートする「StressLess = ストレスレス」である。

フラップレス駐車場は、利用者、同社、社会それぞれにメリットや有効性がある。利用者にとってはバリアフリー設計であり地面に段差がないため、車椅子利用者や高齢者、ベビーカー利用者、子どもなどがつまづく心配が少なく、安全に通行ができる。また、フラップ板が不要なため、入出庫がスムーズに行われ、利用者のストレスが軽減される。そして、フラップ板の上昇・下降による車両への接触や破損のリスクを軽減できる。同社にとってはメンテナンスや運用コスト軽減のメリットがある。機器の接触トラブルが減少し、メンテナンスの手間やコストを削減できる。フラップ式では機器故障時は出庫できないケースがあるためクレーム化しやすい。同社内のデータによれば、フラップレスとフラップ式の現場への出勤回数を比較した結果、フラップレスがフラップ式に比べ約8%少ない結果となっている。社会にとっては遊休時に駐車場を公共的空間として活用しやすくなる。また、監視カメラによる車両認識システムで駐車場の利用状況が記録されるため、不正利用の抑止やトラブル発生時の迅速な対応に貢献し、地域全体の防犯性を高める効果も期待できる。

### ■ 中期経営計画抜粋



〔出所：同社ウェブサイト〕

同社の全直営駐車場・駐輪場に占める北海道、東北、北陸など雪の多い地域における直営駐車場・駐輪場の割合は約4割を占める。同社がフラップレスを導入したきっかけの1つに、フラップ式に起こり得る降雪時や寒冷時にフラップが下がらない、上がらないなどのトラブルを回避し、お客様の利便性や満足度を向上させたい思いがあり、降雪地域を中心にその導入を推進してきた。今後、降雪地域を中心にフラップレス化を進めていき、地域の交通インフラの維持に一翼を担っていきたいと考えている。また、先述の社会的な意義や自社の運用コスト削減に資するものとして降雪地域以外の直営駐車場のフラップレス化も順次進め、管理駐車場についても所有者へフラップレスの利点をアピールしていく方針である。

このように同社が直営駐車場のフラップレス化を進めることは、顧客にとって利便性が高まり、自社にとっても運用コストの低減など持続可能な成長につながる。社会的にも意義があることに加え、国の施策にも合致しており有意義であると言える。

以上

## しがぎん経済文化センター 会社概要

社名 株式会社しがぎん経済文化センター

代表者 取締役社長 波田 晋一

所在地 〒520-0041  
滋賀県大津市浜町 1 番 38 号

設立 1984 年 3 月 21 日

資本金 1,000 万円

株主 株式会社滋賀銀行

TEL 077-526-0005

FAX 077-526-3838

## 留意事項

### 1. KEIBUN の第三者意見について

- 本文書については滋賀銀行が、借入人に対して実施する『しがぎん』サステナブル評価融資について、借入人のサステナビリティ経営と設定する目標の有意義性に対する第三者意見を述べたものです。KEIBUN は第三者意見にかかる業務を行う際、常に誠実に行動します。
- その内容は現時点で入手可能な公開情報、借入人から提供された情報や借入人へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、当該情報の正確性、実現可能性、将来における状況への評価を保証するものではありません。また、当該情報が重要な虚偽または誤解を招く陳述が含まれる場合や、業務上必要とされる注意を怠って作成された陳述または情報が含まれる場合、必要な情報を省略するまたはあいまいにすることにより誤解を生じさせるような場合に、それを認識しながら評価は行いません。適切に第三者意見にかかる業務を行うため、その職務遂行能力を必要とされる水準を維持します。
- KEIBUN は当文書のあらゆる使用から生じる直接的、間接的損失や派生的損害については、一切責任は負いません。

### 2. 滋賀銀行との関係、独立性

- KEIBUN は滋賀銀行グループに属しており、滋賀銀行および滋賀銀行グループ企業との間および滋賀銀行グループのお客さま相互の間における利益相反のおそれのある取引等に関して、法令等に従い、お客さまの利益が不当に害されることのないように、適切に業務を遂行いたします。
- また、本文書にかかる調査、分析、コンサルティング業務は滋賀銀行とは独立して行われるものであり、滋賀銀行からの融資に関する助言を構成するものでも、資金調達を保証するものでもありません。

### 3. KEIBUN の第三者性

- 借入人と KEIBUN との間に利益相反が生じるような、資本関係、人的関係などの特別な利害関係はございません。

### 4. 本文書の著作権

- 本文書に関する一切の権利は KEIBUN が保有しています。本文書の全部または一部を自己使用の目的を超えて、複製、改変、翻案、頒布等を行うことは禁止されています。